

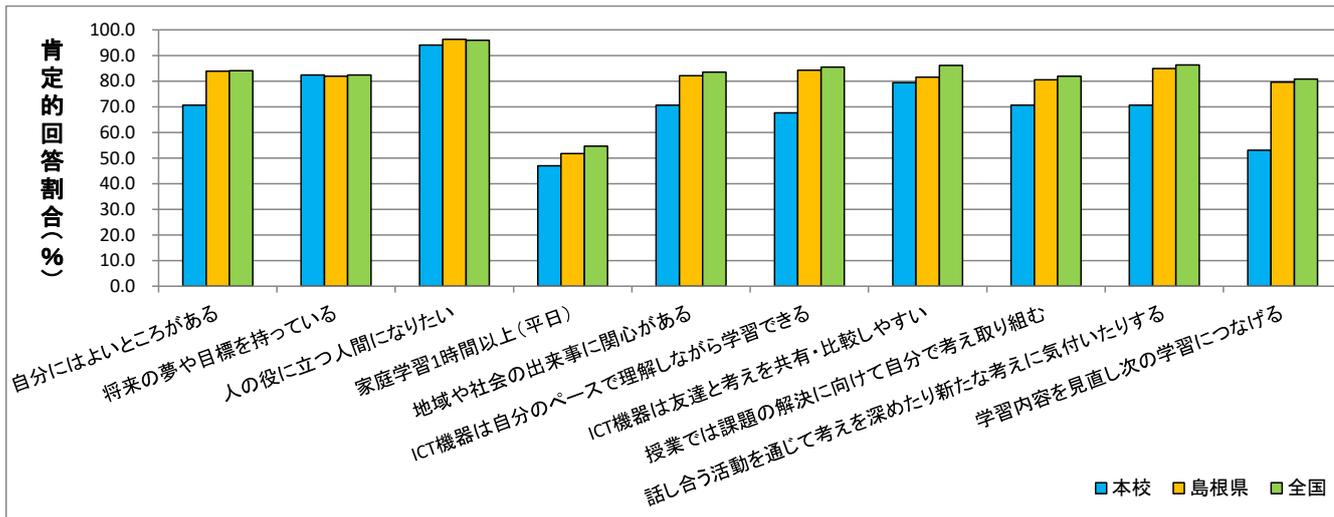
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○目的や意図に応じて、適切なものを選択するなど、情報の扱い方に関する事項については、比較的 Understanding している。 ●物語を読んで心に残ったことを、その理由を交えてまとめて書くという記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高い。	・日頃から書く活動を取り入れ、文章を書くことへの抵抗感をなくす。 ・自分の考えを語尾までしっかり話すこと、書くことを大切にされた指導をする。
算数	○データの活用に関する問題の正答率が高く、必要なデータを取り出して整理分析したり、示された情報を基に必要な数値を読み取ったりする力がついている児童が多い。 ●公式の意味を理解していないなど、体積を求める式が書けない児童の割合が高い。	・日常生活をからめた既習事項の振り返りを定期的に行う。 ・自分の考えを、根拠をもって説明する活動を増やす。

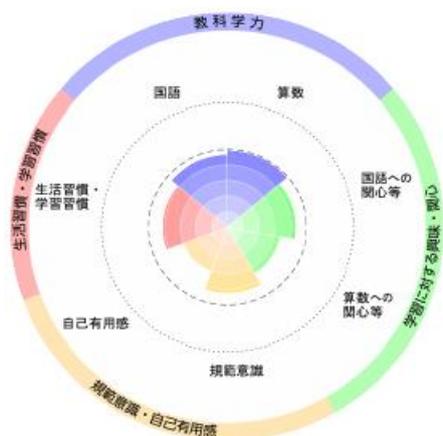
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○家庭学習1時間以上の割合は、県や全国よりも低い結果ではあるが、5年次の県学テの結果よりかなり増えている。 ●学習に対する意欲が低く、課題の解決に向けて自分で考えて取り組んだり、学習内容を見直し次の学習につなげたりすることができていない児童が多い。	・学習に対する自分のめあてを持ち、自分の学習をふり返り、次はどうするか考えるなど、自分の学びに向き合う場を確保する。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICT機器を活用しながら、自分の課題をもって学習に取り組むこと、考えを伝え合うこと、自分の学びをふり返ることを大切にしていこう。

【受検者数】
33名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。